

牛群検定通信 No90

～乳量計（ミルクメーター）の清掃～

乳量計をきちんと洗っていますか？乳量計は牛乳を計量する精密機器で牛群検定にとってなくてはならない器具です。また、牛乳という食品が乳量計を通過するわけですから、精度面でも衛生面でも徹底した管理が必要です。

1 乳量計の洗浄

乳用牛群検定全国協議会の発行する「乳用牛群検定の手引き」では、乳量計は次のように洗浄することとなっています。

- (1) アルカリ性洗剤 → 毎回、使用の都度
- (2) 酸性洗剤 → 3～4日に1回
- (3) 分解洗浄 → 1週間に1回

また、これ以外に年1回の性能検査が義務づけられており、場合によってはゴム等の交換が必要となります。汚れた乳量計は、正確な計量が出来ないばかりか、乳房炎等の原因にもなります。また器具として短命となってしまい、交換時期が早まってしまいます。以下のHPで汚れた乳量計の写真を公開していますので、あてはまっていないか、確認してみてください。

<http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/senzyou.pdf>

2 乳房炎

乳量計は、装着時に搾乳機の空気圧を極力落とさないように設計されています。しかし、乳量計の内部で牛乳が腐敗し、チーズ状にパッキン等にこびりつければ、牛乳の流れが悪くなり、空気圧を落としてしまう要因となります。空気圧が落ちれば、ライナースリップが発生し乳房炎の原因となってしまいます。

また、汚れには乳房炎の原因となる各種微生物がいます。ライナースリップにより、牛乳の逆流現象（ドロップレツツ現象）が発生すれば、それだけ乳房炎感染の機会を増やしてしまいます。

3 各洗浄の特性

(1) アルカリ性洗剤による洗浄

脂肪や蛋白などの有機物系の汚れを除去します

(2) 酸性洗剤による洗浄

カルシウム、マグネシウム、鉄などのミネラル系の汚れを除去

(3) 分解洗浄

ホコリなどの外部の汚れの除去、洗剤が届かないパッキンなどの狭い隙間の汚れの除去、ワラなどの異物の除去、ゴムやプラスチックの劣化の確認
(必要に応じて交換)

4 乳量計の性能検査

年に1回、所定の方法により、性能検査を受けることが義務づけられています。合格した場合は、「検査済証」というシールが貼られます。